

「子どもたちに そっと忍び寄る 魔の手」

私が、小学生の時に流行した遊びがこの「べいごま」でした。「べいごま」は当時の値段で一個10円くらい。勝負で相手に負けると、自分のべいごまが相手に取られてしまう。遊びと言っても賭け事(ギャンブル)でした。当然、担任の先生たちからは「やってはいけない！」と言われていました。



今の子どもたちは、一般的にコンピュータやスマートフォンでのゲームに熱中しています。特に、オンラインによるコンピュータ・ネットワークを利用した「オンラインゲーム」が、子どもたちの間で流行しています。この「オンラインゲーム」に、多くの危険が潜んでいるのをご存じですか。

知らないうちに 大金を支払う

年齢制限はあるものの、最初のプレイは無料で気軽にできる。ところが、それに熱中してくると、いろいろな道具を使いたくなるようなゲーム展開になる。そこでゲーム作成者は、“我を忘れて”ゲームに夢中になっている子どもたちに、巧妙に大金を支払わせる仕組みに誘い込む。その支払いは大人のクレジットカードからです。お子さんから「課金(かきん)」という言葉聞いたことはありませんか。

一日の生活リズムが 完全に狂う

コンピュータ・ネットワークで全世界とつながっているゲーム。ゲームの相手が住んでいる国と、日本の時刻が全くちがう場合もしばしば。相手が地球の裏側に住んでいれば、子どもたちのゲームをする時刻も深夜になり、生活リズムも昼夜が逆転。生活リズムが狂うと、体調に著しい変化が生じます。お子さんは、毎日食欲はありますか。睡眠不足になっていませんか。

子どもたちの言葉づかいに 変化が生まれる

最初は、多くの仲間とゲームを通じてつながるので、子どもたちのコミュニケーション能力も高まるだろうと、遊ぶことを容認した「オンラインゲーム」。ところが、画面上で人の命を奪ったり、体を傷つけたりするゲームに夢中になっていくうちに、言葉づかいがとてつもなく暴力的に。これでは思いやりのある人間関係づくりはできません。お子さんの言葉づかいに、最近変化はありませんか。

「オンラインゲーム」によって、子どもたちの心や体がそこなわれないようにするためには、家族の力が必要です。家族で遊び方を十分話し合い、遊び方の決まりを作り、それを子どもたちがしっかりと自覚し、きちんと守ることがとても重要です。